

学習院アーカイブズ ニューズレター

02

Gakushuin Archives Newsletter 2013.7.12 vol.



塩原疎開学園（1944年）と明賀屋本館太古館（2012年）

女子学習院は1944（昭和19）年8月から塩原温泉の明賀屋本館に疎開学園を設け、翌45年11月まで初等科3年から中等科2年までの生徒が疎開生活を続けた（中等科2年は45年5月、西那須野に移動）。そのとき使用された太古館には、授業や朝礼・集会などに使われた部屋が現在も残されている。

Contents

わかりにくい言葉ですね

—アイデンティティとアカウントビリティ—

大学文学部教授 高埜 利彦 …………… 2

幼稚園100年の史資料

—『がくしゅういんようちえん 再開園50周年記念誌』

の刊行によせて— 桑尾光太郎 …………… 4

文書ファイルの整理・管理について

—組織アーカイブズの事務部署における展開— …………… 6

主な活動（2012年8月～2013年6月） …………… 7

わかりにくい言葉ですね

—アイデンティティとアカウントビリティ—



学習院大学文学部教授
高埜 利彦

少子化の影響で、小学校や中学校が統廃合されたという話は、全国各地で聞きます。私の生まれた1947（昭和22）年は、230万人を超える人口で、最近では100～120万人の出生ですから、2分の1の減少と言えます。誰でも、自分の通っていた小学校が廃校になり、跡形もなく消えてしまったら、ずいぶん寂しい気持ちになるのではないかと想像します。それ以上に、大津波で教室も持ち物も一瞬のうちに流された被災地の生徒や卒業生の失望は、いかばかりであったか。

学生・卒業生の皆さんは、進学や就職の際に、自分の履歴を証明するのに必要書類として、大学に在籍したことを証明する「在学証明書」を発行してもらうことができます。大学（アドミッションセンター、教務課）では、申請に応じて各種の証明書を発行しますが、もしも自分の学んだ学校が廃校になった場合、在籍証明書などをどこに申請したらよいものか不安になりますね。大学でも廃校になるニュースを、この頃聞くことがありますが、是非とも母校は永遠に不滅であって欲しいものと願わずにられません。

学習院の各学校では、学籍簿は永久に保存し管理し、求めに応じて在籍を証明する制度になっています。毎年の学籍簿が作成され増え続けると、古くなった過去のもものは教務課に置かず学習院アーカイブズに移管され、保存・管理されるように

なり、何十年後であっても、必要に応じて閲覧され、自分の学んだことが確認されるようになります。

学習院に勤務する教員・職員についても、学生の場合の学籍簿と同様に、勤務したことの人事記録は永年保存され、たとえば50年後に孫が自分の祖父母が学習院に勤務したことを確かめる問い合わせに、学習院アーカイブズはお答えします。現に学習院アーカイブズに保管されている明治26年～明治45年の「学生に関する書類」をはじめ、昭和戦前期の歴史的公文書（アーカイブズ）に関する数多くの問い合わせがあるように、将来100年後であっても、現在使用している記録類を伝えることで問い合わせに答えられるようにすることも、学習院アーカイブズの役割の一つです。

以上で述べた例示は、いずれも個人が生きてきたことの自己確認（アイデンティティ）に関わる内容で、学習院アーカイブズは一人一人の生徒・学生・教職員にとっての大切な生存を証明する記録を保存・管理し利用に供する役割を担います。

幼稚園から大学まで、教育機関は社会の需要に応える形で存在しています。とくに私立学校はなおさらです。日本の社会はこの10年間、急速に変化しています。この変化に対応して私立学校は変化を遂げなくては社会に不要なものになっていきます。今ここで取り上げたい日本社会の変化とは、以

下のことです。国家の枠組みを超えたグローバル企業（多国籍企業）などが、世界の市場を自由に駆け巡っており、日本も例外ではなくこのグローバル企業の投資対象になってきました。2001（平成13）年からの小泉純一郎政権は、この変化に積極的に参入しましたから、いろいろな場面で良いことも悪いことも日本社会に変化がもたらされました。

一例をあげると、外国の資金管理団体（ファンド）は、投資した日本の株式会社に対して、法令順守（コンプライアンス）や統治（ガバナンス）とともに、説明責任（アカウンタビリティ）などの世界標準（グローバルスタンダード）を強く求めました。大株主の要求に日本の株式会社は対応せざるを得ません。マスメディアもこの動きに同調し、社会全体が世界標準を受け入れ、共通の価値観とするようになっていきました。それまで歴史的に日本では、為政者などの上に立つものが下の者に知らせず、時には隠蔽することもしばしばありました。本年6月に日本野球機構が、使用球を飛ばないボールから飛ぶボールに変えたことを、隠蔽していたことが問題とされたのは、古い従来の隠蔽体質が、社会にはもはや受け入れられなくなったことを示しています。法令順守・統治・説明責任は、いずれも望ましい価値観ですが、欧米に比べ日本はまだ十分に共有されていませんでしたので、この10年前からの世界標準の導入は好ましい社会変化と受け止められます。

文部科学省も、中央教育審議会や私立大学連盟を通して「学位授与の方針」、「教育課程編成実施の方針」、「入学者受け入れの方針」の三方針（ポリシー）を明文化するよう各大学に求めたのち、2011（平成23）年4月にこれら教育情報の公表を法律（「学校教育法施行規則第一七二条の二に基づく情報公開」）で義務付けました。具体的には、教育研究上の目的やその基本組織、入学者受け入れ方針と入学者数、学習成果の評価と卒業・修了の認定の基準など9項目を、大学のホームページで公表することを義務付け、大学に対して説明責任を求めたのです。尤も、文部科学省の方針は大

学のホームページでの公表に留まっています。それらの方針（ポリシー）が実際の教育の中で実施されたかどうかの検証について、どのように行うのかについての言及はありません。過去にさかのぼって検証されるためには、記録を管理・保存し、アーカイブズとして公開されなければなりません。大学アーカイブズの設置は、どの大学にも必要になります。

政府は2011（平成23）年4月施行の「公文書の管理に関する法律」で、国の公文書の保存を定めました。国立大学法人については、公文書を大学アーカイブズに保存・管理することを想定しています。しかし大学アーカイブズの設立されていない国立大学法人も多くあり、設立準備を急ぐ大学は少なくありません。大学をはじめ教育機関にアーカイブズが必要であることは、文部科学省も理解を深めつつあるようです。

アイデンティティとアカウンタビリティという二つの言葉は、もともと日本社会に存在しない概念でした。欧米やその影響を受けた国々の概念で、個人の尊厳を大切に、透明度の高い公正な社会を目指す人々に共通の価値観を前提にしています。わかりにくい言葉であるのは仕方のないことですが、日本社会も世界標準（グローバルスタンダード）を取り入れ変化していかざるを得ないのですから、社会の需要にこたえる教育機関も変化していく必要があります。アイデンティティとアカウンタビリティなどのために有用な学習院アーカイブズには、ますます頑張ってもらいたいと応援しています。

付記：高埜教授は、2008年より学習院アーカイブズ設立準備委員会作業部会座長、翌2009年より学習院アーカイブズ準備室運営委員会座長を歴任し、学習院アーカイブズの構想と具体化にあたって中心的役割を担われました。2011年の学習院アーカイブズ発足後も、2013年3月まで同運営委員会委員をつとめ、日々の業務についてご支援をいただいております（学習院アーカイブズ）。

幼稚園 100 年の史資料

—『がくしゅういんようちえん 再開園 50 周年記念誌』の刊行によせて—

桑尾 光太郎

2013（平成 25）年 5 月 26 日、学習院幼稚園再開園 50 周年記念式典が挙行された。学習院幼稚園自体は 1963（昭和 38）年 4 月の開園だが、「再開園」と称する通り前史がある。1877（明治 10）年に華族の教育機関として開業した学習院は、当初から幼児の教育機関を構想していたが、1894（明治 27）年ようやく華族女学校に幼稚園が併設され、この年男女 41 名の幼児が入園した。当時の細川潤次郎華族女学校長は「本園保育の要旨」について、「幼児の身体能力を知らず識らずの間に自然に発達せしめ併せて幼児の知徳を暢発涵養せしめて家庭の保育を補ふに在り」と述べている。そのため保育時間の多くを「外遊・内遊」の遊戯にあて、華族女学校の運動会にも積極的に参加した。遊びを通じて体力や知識を身につけていくという保育方針は、桑田幸子園長も記念誌の中で述べられているように、現在の学習院幼稚園にも着実に受け継がれている。

華族女学校幼稚園は 1906（明治 39）年、華族女学校が学習院と合併して学習院女学部に改組されたことにともない学習院女学部幼稚園となり、1912（明治 45）年に永田町の校舎が焼失したため四谷の学習院初等学科講堂を仮園舎として保育を続けた。女学部は 1918（大正 7）年、青山の新校舎に移転し再び学習院から独立して女子学習院と改称し、幼稚園も青山で保育を開始した。しかし女子学習院での保育は 1944（昭和 19）年 7 月、戦局悪



大正 4 年保育満了児（女子部蔵）

化により東京都が都内幼稚園の閉鎖を通達したため、中止を余儀なくされた。敗戦後の 1947（昭和 22）年、学習院と女子学習院は宮内省の管轄を離れて合併し、財団法人学習院つまり私立学校として再出発を遂げた。このとき幼稚園の復活は果たせず、1963 年の再開園を待たなければならなかった。学習院の幼稚園は、18 年半にわたる中断期間をはさんで延べ 100 年の保育を行ってきたのである。

今回『がくしゅういんようちえん 再開園 50 周年記念誌』を編纂するにあたり、これまでの記念誌では扱われなかった前史を書き込むことが目標となった。戦前の幼稚園は華族女学校・女学部・女子学習院の附属という位置づけであったため、まず現女子中・高等科（女子部）に残されている史資料や写真の調査・収集にあたった。女子部は『学習院女子中等科 女子高等科 125 年史』（2010 年刊行）の編纂を契機に、所蔵史資料の整理やデジタル化を進め、筆者も整理や執筆編集の作業に加わっていたこともあって、貴重な史資料にアクセスすることができた。なかでも昭和戦前期の作成と思われる手書きの「幼稚園かるた」は、再開園後の幼稚園でも同様のかかるたが昭和の終わり頃まで作成されていた。再開園後のかるたを見つけることができなかったのは



再開園 50 周年記念誌



幼稚園かるた（女子部蔵）

残念である。今も園児たちのお気に入りである大型積み木は戦前から親しまれ、新宿御苑への遠足は華族女学校幼稚園時代から行われていた。こうした旧幼稚園以来の遊具や行事が脈々と受け継がれていることを、編纂作業を通して改めて知ることになった。

再開園後の史資料については、まず膨大な量の写真群からふれなければならない。2009（平成 21）年、幼稚園の行事や園児スナップを撮り続けてきた東京教育写真から、およそ 40 年分に及ぶネガフィルムの入った段ボール約 30 箱が寄贈された。これまでに 1995（平成 7）年分までのネガをデジタル化し、同年までの写真はおよそネガ約 28000 本分・100 万コマに達した。この後もデジタルカメラになって以降の、画像入り CD-R が大量に寄贈されている。

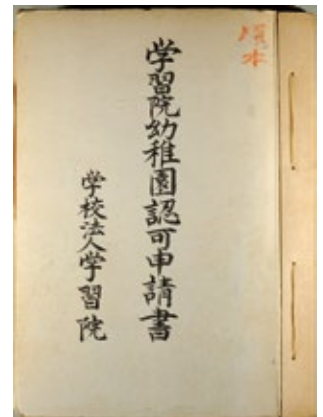
その中から記念誌に掲載する写真を選び出すという、気の遠くなるような作業にあたった幼稚園の轟浩美先生は、大変なご苦労を長く続けられた。筆者もネガの整理やデジタル化を手伝い、段ボールいっぱい詰められたネガの山と対峙して呆然とした。とはいえ写真の一コマ一コマには歴代 50 期にわたる園児の豊かな表情が刻印されており、この宝の山をフルに活用した今回の記念誌は、幼稚園の魅力を満載した紙碑＝紙の記念碑と呼ぶにふさわしい内容となった。

記念誌の「行事にみる 50 年のあゆみ」には、入園式から始まり遠足・父親参観・お泊まり保育・敬老の日の集い・運動会・おもいほり・動物園・おもちつき・クリスマス・おたのしみ会・おわかれ遠足・卒業式等々

の行事の写真がふんだんに盛り込まれている。園児に囲まれて穏やかに笑みを浮かべる安倍能成院長のスナップも残されていた。ネガの入った段ボールは学習院アーカイブズが保管しており、デジタル化した画像データも含めて宝の山を将来に伝え再び活用していくことが、アーカイブズにとっての大きな使命である。

写真に比べ、再開園以降の文書史資料の残存状況は厳しかった。学習院アーカイブズには「学習院幼稚園設置認可申請書」（控、正本は東京都豊島区に提出）をはじめ再開園準備関係の文書が残されている。1962（昭和 37）年 10 月 25 日の学習院理事会で幼稚園の開設が承認されて以降、翌 63 年 4 月の開園までの約半年間に、園舎の建設・教員の確保・園児の募集と選考などが急ピッチで進められた。書き込みの入った酸化したわら半紙からは、関係者の熱意と努力が伝わってくる。

幼稚園に保管されていたはずの文書や冊子類は、園舎の建て替え等をきっかけに多くが散逸してしまった可能性がある。毎年作成される園児募集パンフレット「幼稚園のしおり」は再開園初期のものを発見できず、日常記録である行事予定表や日誌類・運動会プログラム



幼稚園設置認可申請書

等も不十分にしか収集できなかった。そのため説明文や年表を執筆作成する際に根拠となる資料が見つからず、些細な事実確認でも困難の連続であった。

筆者はこれまで学習院で大学五十年史・短期大学史・女子部 125 年史・幼稚園史の編纂作業に関わり、そのたびに史資料を残し将来に伝えていくことの重要性和難しさを感じてきた。学習院アーカイブズという全院をカバーする組織ができたのだから、各学校と連絡をとりながら着実かつ利用しやすい史資料保存ができるよう取り組んでいきたい。

（学習院アーカイブズ職員）

文書ファイルの整理・管理について

—組織アーカイブズの事務部署における展開—

平成 25 (2013) 年 3 月、学校法人学習院のすべての事務部署は、学習院アーカイブズが提案した文書ファイルの整理・管理について、その実施を決定しました。

提案は、(1) いま作成されつつある文書ファイルをどのように整理・管理していくのか(現用文書ファイルの整理・管理システムの構築)、及び(2) 堆積する非現用文書ファイルのうち何を将来に残していくのか(文書ファイルの評価選別の手順)、の2点で構成されています。

提案(1)の要旨は、学習院アーカイブズが新たに作成した「文書ファイル整理・管理要領」(以下「要領」という)をすべての事務部署に適用すること、そして「要領」に沿って現時点で実施可能な作業に平成 24 年度から着手する、というものです(既存の「文書取扱規程」については、別途、所管課である総務部総務課によって改正が予定されています)。

具体的な作業は以下のとおりです。

①まず平成 24 年度中に作成・取得した文書を綴じた文書ファイルについて、「文書ファイル管理簿」に(発生段階で)登録し、当該部署において実務上などで必要とする保存期間を設定する。なお、「文書ファイル管理簿」の様式は、各事務部署ごとの既存の「業務分担表」を利用し、具体的業務名とその業務から発生した文書ファイル名とを結びつける形で作成しました。

②登録した文書ファイルの背表紙には保存期間を示した標識(色別シール)を貼付する。

③次いで平成 25 年度以降は、新たに発生する文書ファイルを登録するとともに、現用を多く含むため平成 15 年度完結の文書ファイルまで(過去 9 年間分)遡ってそれぞれ事務部署で一括して登録する。なお、新たに発生する文書ファイルの背表紙の表記については、必須記載事項を含め、推奨例を示しました。

この「要領」に沿って適切に文書ファイルの整理・管理を行うことは、事務効率の向上や個人情報の漏

えい防止にも寄与するものと予測できますが、まず職員全員が関与して事務部署で先行実施し、その意義や効用を教研部門に周知していきたいと考えています。

「要領」には、上述した「文書ファイル管理簿」への登録、保存期間の設定、色別シールの貼付などとともに、保存期間の満了した文書ファイルの学習院アーカイブズへの移管、学習院アーカイブズによる評価選別、廃棄と保存などの一連の流れ(ライフサイクル)が明記されています。

ところが現状の学習院アーカイブズの収蔵スペースはほぼ満杯であり、移管に対応できる状況にありません。そこで提案(2)の要旨は、施設の手当てを経たあとの将来の移管に備え、各事務部署の倉庫に大量に堆積する非現用文書ファイルについて、平成 25 年度からあらかじめ評価選別を実施する、というものです(執務フロアのロッカー内に収蔵する非現用文書ファイルについては今回の作業の対象外とし、次のステップの作業と位置付けました)。

具体的な作業は以下のとおりです。

①学習院アーカイブズが倉庫内の(平成 14 年度以前に完結した)文書ファイルの仮目録を作成したうえで、別に定める評価選別基準に基づき、文書ファイルごとに廃棄と保存の原案を作成する。

②学習院アーカイブズと当該部署それぞれの職員数名で構成するワーキンググループにおいて、この原案と当該部署の意向をすり合わせたうえで、最終案を決め、廃棄または保存の色別シールを貼付する。作業の順番は、法人の一部署から始め、法人部署の終了後、大学事務部署・その他へと進める。廃棄の時機については、要検討としました。

1 か月に 1~3 の事務部署の作業を行い、平成 27 年 3 月までに終了する予定です。タイトな工程表ですが、このような作業における一定の成果が、施設面を含め、学習院の組織アーカイブズに新たな展開をもたらすものと考えています。

(学習院アーカイブズ 長岡修司)

主な活動

(2012年8月～2013年6月)

◆文書・資料の調査・整理及び目録作成

- ①総務部移管資料の受入れと整理：旧公印・安倍能成院長揮毫の書・色紙・ビデオテープ・カセットテープほか（2012年8月～）
- ②幼稚園所蔵資料・写真等の整理、仮目録作成（2012年8月～）
- ③女子大学外部倉庫委託文書の整理・選別作業、一部資料（短大新聞・和祭パンフレットなど）をアーカイブズに移管（2012年8月）



女子大学での選別作業

- ④女子中・高等科所蔵史資料の整理・仮目録作成：文書・写真の仮目録作成および図書館史料室所蔵史資料の照合作業を実施（2012年度～）
- ⑤大学学長室移管資料の受入れと整理
予算・建築・事業計画などの学長手持ち資料（2013年5月）
- ⑥文書ファイルの整理・管理についての提案と事務部署における文書ファイル管理簿の作成開始（2013年3月～）
- ⑦西5号館地下倉庫収蔵非現用文書ファイルの評価選別にむけての準備作業（2013年6月～）

◆史資料のデジタル化・データベース化

- ①大学図書館貴重書庫所蔵古写真の整理とデジタル化（294点中190点デジタル化）
- ②大学史料館所蔵古写真のデジタル化（42点）
- ③女子中・高等科図書館所蔵古写真の整理とデジタル化（120点）
- ④幼稚園所蔵写真の整理およびデジタル化

- ⑤学習院アーカイブズ所蔵「例規録」（明治19～大正2年）のマイクロ撮影とデジタル化
- ⑥アーカイブズ所蔵古写真・戦後大学関係写真のデジタル化
- ⑦女子短期大学ビデオテープ（1978年撮影）のデジタル化

◆史資料の受贈

- ①安倍能成院長使用の硯（2012年6月）
- ②乃木希典宛書簡巻物（寺内正毅・山県有朋・細川潤次郎など、2012年12月）
- ③音楽愛好会設立認可書（2013年3月）



安倍能成院長使用の硯

◆史資料の保存修復等

- ①総務部移管安倍能成書の修復・額装（2013年3月）
- ②「華族女学校行啓図」（複製、百周年記念会館3階展示）のリニューアル（2013年3月）
- ③自動演奏ピアノの修理・調律（2013年2月）

◆史資料の貸出し・展示協力

- ①愛媛人物博物館企画展「安倍能成一教育に情熱を注いだ硬骨のリベラリスト」への資料貸出・協力（アーカイブズおよび女子中・高等科所蔵資料、展示期間2012年12月1日～2013年3月10日）
- ②大学史料館・大学文学部教育学科開設準備室共催「近代日本の学びの風景—学校文化の源流」への

協力・資料貸出（アーカイブズおよび初等科所蔵資料、展示期間 2012 年 10 月 1 日～12 月 1 日）

◆講演会・教育研究支援等

- ①大学文学部教育学科開設準備室シンポジウム「学校文化の源流」への参加（2012 年 10 月）
- ②学習院アーカイブズ講演会「史資料にみる学習院の姿—アーカイブズ所蔵資料の紹介」の開催（2012 年 12 月 6 日、講師桑尾光太郎）
- ③大学史料館講座「教育の力 時代を超えて今に生きるもの—戦前・戦中・戦後 女子学習院から学習院女子部へ」への協力・写真提供（2012 年 11 月）
- ④各科初任者教員研修において「学習院の歴史と教育」を担当（2013 年 4 月）
- ⑤大学基礎教育科目「近代日本と学習院」（講師桑尾光太郎、2012・2013 年度）

◆年史編集支援

- ①『がくしゅういんようちえん 再開園 50 周年記念誌』の編集と刊行（2013 年 5 月 26 日、記念式典挙行・記念誌刊行）

◆学外所蔵学習院関係資料の調査・収集

- ①宮内庁書陵部公文書館所蔵学習院関係文書の調査（2012 年 8 月）
- ②塩原温泉明賀屋本館での現地調査
明賀屋本館は 1944 年女子学習院の疎開先、聞き取り調査及び建物等を調査（延智子、石川和外女子中・高等科教諭との共同調査、2012 年 8 月）
- ③秩父宮ラグビー場内、女子学習院遺構調査（延智子女子中・高等科教諭との共同調査、2012 年 11 月）
- ④愛媛県生涯学習センター所蔵安倍能成関係資料予備調査（2012 年 12 月）



秩父宮ラグビー場内、旧女子学習院石堀

◆展示

- ①学習院百周年記念会館 3 階展示コーナーのリニューアル：安倍能成書・原稿（複製）などを展示（2013 年 4 月）



◆その他

- ①全国大学史資料協議会総会・全国研究会「大学アーカイブズの社会貢献」への出席（会場同志社大学、2012 年 10 月）
- ②全国大学史資料協議会・東日本部会研究会への出席（会場東海大学大学史資料センター、2012 年 12 月）
- ③同志社社史資料センター・京都大学大学文書館の視察（史資料受け入れ・保管・整理作業等を取材、2013 年 2 月）
- ④学習院アーカイブズ運営委員会の開催
2012 年度：10 月 16 日・3 月 25 日
2013 年度：5 月 29 日

資料提供のお願い

学習院の歴史を示す書類・写真・印刷物などをお持ちでしたら、ご教示くださいますようお願い申し上げます。クラブ活動やゼミ活動・文化祭の記録、写真、時間割、記念品、映像フィルム等々、在学・在職時代の思い出の品々が貴重な歴史資料となります。

学習院アーカイブズ・ニュースレター第 2 号
2013（平成 25）年 7 月 12 日発行

編集・発行 学習院アーカイブズ
Gakushuin Archives
〒171-8588 東京都豊島区目白 1-5-1
TEL 03-3986-0221（内線 2531、2551）
事務室 西 5 号館（本部棟）地下 1 階